



こうふ町 議会だより

町 勢

世帯数／1,140世帯
人 口／3,624人
(平成21年2月1日現在)

町の木



ぶな

町の花



あやめ



シーズン到来!! 奥大山に新戦力

一般会計	1億6,929万円追加	2 P
一般質問	町政を問う	4 P
地方行政調査報告		8 P

12月定例会

平成20年12月定例会は12月11日に招集され会期を19日までの9日間と定めて開かれた。

今回の定例会には平成20年度の一般会計補正予算と特別会計補正予算、条例の一部改正など14議案が提出された。

議会ではこれらについて慎重に審議した結果いづれも原案どおり可決した。

12日の本会議では、3名の議員が一般質問に立ち、町政について議論した。

尚、本会期中の傍聴者はわずか4名でした。

一般会計1億6929万円追加

予算総額 32億3703万円に



補正予算

一般会計

主な内容

●学校改築費

1億7502万円

増額

小学校統合による江尾

小学校の体育館建て替え

工事費等

●総務費

276万円減額

電算システムリース料

過疎バス対策費等の減

額によるもの

●民生費

830万円増額

福祉灯油購入助成金

障害者福祉費、老人福

祉費の増額によるもの

●衛生費

128万円減額

簡易水道特別会計繰出

金(経常分)



建て替えされる江尾小学校体育館

●農林水産業費

254万円減額

チャレンジプラン支援事業補助金の減額によるもの

●土木費

1014万円減額

除雪機購入費の減額

●諸支出金

60万円増額

財政調整基金 ふるさと応援基金 積立

●予備費

104万円増額

特別会計

●国民健康保険特別会計

(事業勘定)

1310万円増額

共同事業拠出金(高額医療費共同医療費拠出金 保険財政共同安定化事業 拠出金)の増額によるもの

●医業費

354万円減額

(施設勘定) 医療機購入見積り価格 減による減額

・介護保険事業特別会計 (保険事業勘定) 253万円増額

電算システム更新によるもの

・笠原市民農園特別会計 19万円増額

市民農園の畑にたい肥

散布委託料

・索道事業特別会計 26万円増額

索道管理費(役務費、広告料によるもの)

・簡易水道事業特別会計 一般会計繰入金 135万円

・農業集落排水事業特別会計 105万円増額

吉原地区建物共済費支払によるもの

・特定環境保全公共下水道事業 40万円増額

9月～11月までの使用料見直しによるもの

条例改正

▼江府町職員の給与に関する条例の一部改正する条例

この条例の一部改正は、特に医療職給料表の適用を受ける職員のうち採用による欠員の補充が困難

であると認められる職の初任給調整手当等について。江府町条例の一部を改正する条例

▼江府町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例

この条例の一部改正は1週間当たり40時間勤務を38時間45分に江府町条例の一部を改正するものである。

▼江府町国民健康保険条例の一部改正する条例

出産育児一時金として35万円支給を町長が健康保険法の規定を勘案し必要と認める場合は3万円上限として加算するものとする。

▼江府町立中学校等設置条例の一部改正する条例

小学校統合により、江府町立江府小学校を設置する条例の一部を改正する条例



陳情の審査結果

みなさんから提出のあった陳情を審査した結果、次のとおり決定しました。

件名	審議結果
自治体における平和教育の推進を求める陳情書	趣旨採択
小学校入学前の子どもを対象とする国の乳幼児医療費無料制度創設と国保国庫負担金減額調整をやめるよう国に対して意見書を上げることを求める陳情書	趣旨採択
すべての子どもたちの健やかな育ちを保障するために「現行保育制度の堅持・拡充と保育・学童保育・子育て支援予算の大幅増額を求める意見書」提出を求める陳情書	趣旨採択
地方自治体の地域生活支援事業への国の補助のあり方についての陳情	趣旨採択
障害者自立支援法の事業者報酬の抜本的見直しを求める陳情	趣旨採択
小規模作業所の存続と小規模作業所の利用者負担の廃止についての陳情	趣旨採択
障害児デイサービスの存続を求める陳情書	趣旨採択
日中一時支援事業等の地域生活支援事業における応益負担の見直しを求める陳情書	趣旨採択
島根原子力発電所の停止措置及び原子力に依存しないエネルギー政策の転換を求める陳情書	不採択
高齢者に負担増と差別医療を強いる後期高齢者医療制度の中止・撤回を求める陳情	不採択

臨時会

1月21日第1回臨時会を開催し、江府町議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例を原案可決した。



一般質問



町営バスの運行について 集落がんばれ支援の考えは

長岡 邦一

問 運賃と運行計画は
答 代表委員の意見を聴取で

質問 町営バスで念願の杉谷・小原集落も新路線で運行されるという。洲河崎、久連を除きほぼ全集落を網羅し、尚且つそれぞれ増便となり、より便利になる運行ルートの説明を受けたが、運行計画の作成は、集落からの希望などを聞き取りされたのか、まちづくり町民会議などでのような協議されたのか何う。



新規導入される町営バス

の区間についてどのような考えで設定されたのか何う。

町長答弁 町営バス運行計画に際し個々の集落の意見は伺っていないが小中学生の保護者、老人クラブ等の地域代表等を含めご議論を頂いています。基本は利用しやすい便数と料金であり、結果として新たに小原、杉谷路線を追加し義務教育の小中学生は無料化し町民は一律200円となりました。現状480円から下がる地区、170円から上がる地区とありますが全町的な観点からご理解を頂きたいと思えます。尚回数券の割引利用で現在の料金並になります。又、バスを江府小学校まで乗り入れるのが本位

ですが、小江尾踏切からの道が狭くバスや乗用車の通行と徒歩で通行する児童を考えると大河原線は県道の位置で、他は防災情報センターとなります。

問 水道料の減免は
答 他の支援策で

下水道は月額210円ですが、上水道は使っても使わなくても基本料金の945円は支払わなければならず、年間1万1340円になる。せめてこの減免の考えがないのか何う。又、集落を維持していく他の支援策があれば何う。

質問 本町の徴税率は県下でもトップで、町民の方の納税意欲と、集落の納税組合でのご努力も考えなくてはならないと思

う。固定資産税は県下最高の1.6%にし、近年まで集落活性化補助金があったが、今ではそれもなくな、しかも今年4月からは公共料金の見直しで、上下水道料金も上がり、物価の値上げと合わせ家計は打撃を受けている。集会所も町内全集落に設置されその維持管理も大変である。

町長答弁

水道料金はこの4月に町民のご理解を得て改定しましたが他町の料金と比べ割安と思っています。水道料金の減免は神社等年に1、2回しか使わない所は使われた月のみの料金を頂く措置を取っていますがそれ以外の減免は考えていません。高齢化のなかで地域の結びつきが弱くなっており、地域活性化に対して年3万円の補助制度を設けており現在、15地区を支援しています。39集落全てがこの制度を御利用頂き活性化にご努力頂ければと考えています。



図書館のあり方は 新型インフルエンザの 対策は

田中 幹啓

問 図書館の分析、位置づけ、研究会、準備会の発足は
答 図書館の重要性に鑑み方法等検討する

質問 私は、ここ何年間いろんな図書館を見学する機会がありました。本町の図書館をどのように分析しておられるのか、トップの考え方が大きく影響します。将来における位置づけ、展望はいかなる方向を考慮しておられるのか、図書館の研究会建設準備会とか、文化に対するアクションを起こすなど、町民が顕在的、潜在的な問題を持っているか調査の必要を感じるが、教育委員長、町長に何う。

教育委員長答弁 本町の図書館は、平成17年現在の防災・情報センターに移管され、明るく立ち寄りやすい場所の図書館として町民の利用も高まりました。さらに平成18年度に導入された図書館システム、専属の図書館司書の配置、その利便性が大きく飛躍的に高まったと思えます。専有延べ床面積は県下の公立図書館の中では分館を除き最も狭く、日野郡内の他町の施設と比較しても半分ぐらいの面積です。また図書資料費予算は3分の1という現状です。蔵書も、県下公立図書館の中では最低の規模です。そうした中、開館日数は年間352日県下で最も多く貸出冊数は、徐々にふえる傾向です。今後とも工夫を積み重ね、生涯学習推進の拠点としてサ

ービス向上に努めてまいります。
町長答弁 生涯にわたって人間形成において読書の占める役割は非常に大きく、欠かせない要素であると考えております。図書館の持つ機能には、文化、情報の発信地として、また町民の皆さんの身近に寄り添える憩いの場、さらに小学校統合もあり、町内の子供たちの安全・安心を提供する居場所として図書館に期待されることは多岐にわたっております。子供たちの利用促進を図るためには、施設整備を考えなければなりません。大きな課題の一つとして庁舎とあわせて図書館の重要性を考慮しておりますので、時期をがさずに体制研究会、

問 国、県の指導と本町の取組みは
答 各医師などの医療スタッフで対応

準備会、またアンケートとかいろいろな方法を検討し、やっていかなければならないと思えます。

質問 新型インフルエンザは、日本でも膨大な犠牲者が予測されるとしてマスコミでも大きく報道されているが、国、県の指導は、本町の今日までの取組みは、そして、町民にはどのような指導、啓蒙を考えているか何う。

町長答弁 国は、平成17年11月14日対応行動計画を策定し、直ちに各都道府県対策本部を設置し、平成20年3月には県は新型インフルエンザ対応マニュアルを作成しております。平成20年7月に県内市町村の防災担当、福祉保健担当を招集し意見交換会を開催、その後各保健所管内に市町村における対応マ

ニユアルを作成するよう指示を受けておりますので、対応を進めてまいります。

本町では福祉保健課を中心に内部協議を重ね、まず、保健・医療・福祉の部門において共通認識と情報の共有化を図っております。県のマニュアルでは、発生段階の対応として、おおむね5段階を想定しております。まず1段階発生未確認期においては、小・中学校を初め各事業所など、防災無線、町報などを通じ手洗い、うがい、マスクの着用などの励行を行なうよう衆知することを考えております。新型インフルエンザの対応についての予算的な措置は、平成21年度予算で検討します。本町の特色である、診療所を抱える行政として、各医師などの医療スタッフの専門性を発揮し、町民の皆さんの安心・安全を確保してまいりたいと考えております。

一般質問



江府町の農業による まちづくり

川上 富夫

問	江府町の農業振興は
答	生産者・行政・JAの連携で農業の発展を

質問 平成20年は食の安全で特に中国ギョウザ問題から始まって、事故米の偽装による販売、肉の偽装など食の安全が脅かされています。スーパー等で買う場合、生産地については、皆さんチェックされて買求めています。明るいニュース、わが町ではお米について貝田集落が「米と伝統文化の景観の里」の条件に適合し、県下で初めて農林大臣から、認定証が授与された。

日野源流米コンテストで最優秀を獲得され、江府町のおいしいお米が評価され自信を持って江府町の「米」を奥大山ブランド化して、販売力の向上につなげるとしています。野菜の生産は、白ネギの評価も高いが、高原キヤベツ、雨よけトマト、等々、販売高は多くありません。

2005年農業センサスでは、農業世帯の9割以上が、200万円以下の農業収入です。農業に後継者が出来る様な施策が必要です。「米」と「水」を中心としたブランド化を図る。集落営農の推進。そして1番は、販売力の強化、販路の拡大等を踏まえて、行政、農家、JAを中心に積極的な取り組みが必要です。江府

町だけで出来ることではありませんが、県を巻き込み、農業施策に対する町長の所見を伺う。

町長答弁

農業施策の所見について江府町の農業の実態は65歳以上の方々にずっと支えられているのが現状です。また食の安全、消費者の危機感に対して、安心・安全な作物の供給が必要と考えます。江府町の生産基盤であり、生活基盤であります。一世を風靡した高原大根も年と共に重量野菜、産地間競争、後継者不足で衰退して、現在白ネギ、トマト、キヤベツ等々を中心に、生産基盤が出来ていますが、新たにコンニャクを中心とした奥大山高原野菜研究会と云う自主的な生産者の方々に



御机ほ場

町として、応援も必要と考えています。宮市法人の方でお米の販売をインターネット等で積極的に展開されています。今、「奥大山」のブランドの風が吹いてきています。「米」「水」のセット販売等戦略を図っていかねばいけません。

せん。国に続けていた、きたい直接支払制度です。中山間地農業の支えとなつてからです。町も4分の1を付加しています。営農指導、販売等について、行政・JA・生産者の連携を密にした江府町の農業発展に取り組んでいきます。

県議長会行政調査報告

(平成20年10月9日～11日)

調査地

鹿児島県始良郡湧水町

鹿児島県中央北端に位置し、総面積144.3

km²の盆地状の地形、九州

第二の河川、川内川が貫

流して肥沃な耕地が拓け

年中冷水が湧き出し水道

の水源や水田の用水とな

っている。

霧島山麓には陸上自衛

隊(332ha)鹿児島刑

務所(125ha)等がある

霧島屋久国立公園内の

町である。

平成17年3月

栗野町と吉松町が合併

人口11,606人

世帯数5,163戸

一般会計70億3千万円

内町税

9億6940万円

(14%)

地方交付税

28億9200万円

(41.1%)

町民一人当たり使われた

金額 605,000円

町債一人当たりの残高

873,000円

研修内容

①議会概要

議員定数 18人

次回から12名に

イ. 正、副議長の任期

ロ. 常任委員会(総務、

経済建設、文教厚生)

ハ. 議会運営委員会

(副議長各常任委員長、

総務副委員長

二. 特別委員会(議会広

報、水害対策調査、議

会改革調査)

一般質問 一問一答方

式 1人60分以内

②行財政改革の取組につ

いて

歳入歳出の見直し

イ. 各種団体等の補助金

見直し

ロ. 手数料、使用料の見

直し

ハ. 税等の滞納整理

二. 職員の定数、給与の

見直し

③自立のまちづくりにつ

いて

地域の活性化方策(合

併後旧施設、公民館等全

て利用している)

霧島山麓丸池湧水は、

環境省の名水百選の一つ

で水量は一日約6万tで

生活用水の90%以上をま

かかっている。今後は町

商工会が飲料水として売

り出す。

観光面でも名水丸池感

謝の夕べの祭りがあり、

今後は観光に大いに役立

てる。

産養蚕等の複合経営であ

ったが高齢化、米価の低

迷、農畜産物の輸入等に

より、第一次産業の比率

は低下しているが安心安

全な食糧供給のため自給

率向上に努める。

企業進出は、製造業中

心とした会社が更に進出

を図るため鹿児島県によ

る工業団地の整備も進め

ている。

④議会の活性化について

慣例の見直し、従前の

議会運営のあり方見直し、

議会審議の見直し等改善

議会活動の住民への周

知、報告等

考察

議会概要では

議会運営委員会

は、副議長及び

常任委員長が委

員であり、我が

町も今後検討課

題である。一般

質問は江府町と

同様に内容を濃

くするため一問

一答方式で一人

60分以内である。

行財政改革は

見直しをされている。地

形的部分と人口が多いた

めか一人当りに使われた

金額が少ない。

自立の町づくりについ

ては合併後の旧施設、公

民館すべて利用されてお

り、我が町も小学校統合

後の旧校舎の今後につい

ては大いに検討し、地域

の活性化の源にしなければ

ならないと思う。



名水百選の一つ丸池湧水 (資料より)

地方行政 調査報告

(平成20年10月20日～22日)

株日田天領水 について

大分県日田市市ノ島

目的
名水といわれる日田天領水について水の成分と水に関わる商品開発等調査し、江府町のまちづくりに活かす。

概要
大分県日田市は北部九州のほぼ中央に位置する町で周辺の山々から大小いくつもの川が流れ込み市の中心部を東西に流れる三隈川に注ぎ、九州最大の川筑後川となる。「日田天領水」の本社工場は三隈川の中州、中ノ島にあります。

考察
天然のミネラルバランスを保った硬度約32mg/lの軟水で原水の水质は、滅菌処理をしなくても基準をクリアするほどの水质でPH8.3に保たれた弱アルカリ性ということである。

われ、社長は自信にあふれていた。しかし工場内部の見学は許されなかった。他に、お茶・化粧品シリーズ、日田天領水仕込みの麦焼酎、めんつゆ等の商品あり。

道の駅「せせらぎ郷かみつえ」について

大分県日田市上津江町

目的
閉校となった小学校を改装し、道の駅、宿泊施設、レストラン等運営されている事例を調査し、小学校統合後閉校となる校舎の利活用を活かす。

概要
児童数の減少により平成6年3月4つの小学校を1つに統合し、地元川原小学校も閉校となった。地域の活性化と学校跡地の有効利用を目的として、平成12年8月道の駅オープン。



道の駅「せせらぎ郷かみつえ」

考察
国道沿いという立地条件で交通量が大変多い。2002年ワールドカップの際、サッカーカメルーンの選手がキャンプ地として選んだ事で有名。閉校になってせせらぎ郷かみつえがオープンするまで何年も経過しているが、地区の要望を充分聞き、先ず地区利用目的としてオープン。江府町も統合までと少し。学校跡利用についてじっくりと時間をかけて検討したいものである。

御船町バイオマス タウン構想について

熊本県上益城郡御船町

目的
総合計画の中にバイオマスタウン構想を位置づけ、地域の中に賦存する家畜排泄物以外のバイオマス資源を活用することにより、環境保全循環型社会の構築を目指すまちづくりを調査して江府町のまちづくりに活かす。

概要
熊本市の東南16・6kmに位置し、東西20km南北10km、人口18116人、世帯数6015世帯、総面積99km²、林野面積56・3%

町内に多くある竹をメインとして事業化を前提としたバイオマス構想を策定、県内では5



御船町バイオマスタウン構想の説明

考察
町長は新しく就任されて1年半。ふるさと再生と創造を目指して町政運営と町の変革に取り組んでおられる熱意が感じられる。竹をメインにした事業化は、大手企業に振り廻される事のない様地元参加で実施。竹林には進入路はかなりのもの、搬出、管理等継続的な問題も山積しているのではと懸念し

物産直売所「かのこの里」について

福岡県宗像市

た。平成22年4月より創業開始予定との事。何はともあれ、操業後の結果に期待したい。

目的
JAが運営する直売所の立地条件、集客状況、商品等調査し、江府町の直売所の参考にす。

概要
福岡県宗像市の市街地に位置する「のとれづら」のこの里は、農産物直売所です。

鉄筋二階建
519・63㎡
組合設立
平成9年5月3日
新店舗開店
平成17年5月1日
入会金 1万円
組合員数 257名
客数
1日当り 700名
年間総売上
2億5千万円
考察
店の運営は内容的には



サントリー九州熊本工場

サントリー九州 熊本工場について

熊本県上益城郡嘉島町

目的
創業してからのサントリー工場を視察し、地元との関わりについて調査する。

考察
2003年7月にオープンしたサントリー熊本工場は広大な敷地面積で町の一部とも言える場所に位置する。交通のアクセスも良い事もあり、新

しい熊本の観光スポットとして多くの見学者が訪れている。地元との関わりを大切にしていると言われた様に、地域の人と一緒に川や公園の清掃活動等環境に気配りする一方、老人いこいの会、各スポーツ大会、七夕祭等地元の間行事にも参加されていると聞く。サントリー天然水株式会社の大森工場にも江府町と共生の町づくりに積極的に参加を望みたいものである。



物産直売所「かのこの里」 (資料より)

他と同じであるが一番の強みは店と地続きに加工所を兼ねている事。野菜売上は下り気味であるが加工品や惣菜品は年々伸びている。漁港も近いことから海産物も多い。

調理室を新設、中学校5校のみセンターで調理。平成15年度より週5日完全給食で米飯も3回から4回に増えた。給食指導はさまざまな工夫がされ、子供たちにも「食」への意識を高めてもらうために生産者との交流会、農家訪問などを通して食育を推進されていると感じた。

総務経済常任委員会

調査日 平成20年11月18日

事務調査

を得て、早期工事発注されるよう努められたい。

1. 地域高規格道路江府三次線（江府道路）の進捗状況

国、地方の財政状況の変化もあり、当初計画からルートが一部右岸に変更されたことにより関係集落では、このことに対して反対があり、理解が得られず月日は経過しました。再度日野川左岸ルートの説明を受けました。町内の交通量の減少、交通安全に寄与する必要な道路として、県・町が一体となって関係集落に理解と協力を得て、早期着工を、供用開始に努められたい。

3. 行財政改革の進捗状況について

歳出において平成15年度決算に対して19年度決算では職員数は78名から70名に議員定数も14名から10名に減らし、1億5千万円の削減を図っている。建設事業費においては、8億4千万円減と大幅に削減したが、公債費は1

億9千万円の増加となっている。

公債費が平成21年度にピークを迎え、その後3年ほど実質公債比率が25%を超え、早期健全化団体になる見込みだが、生産基盤の整備や生活基盤整備を行った結果なので、財政推計を速やかに町民の方へ説明され、今後とも物件費等の節約に一層努力されたい。

歳入で、中電の固定資産税収の減少はありますが、誘致企業のグリーンズ・サントリーの減免後の収入に期待します。

4. 江府町農業公社の管理運営状況について

平成15年から始まった農業公社は稲の刈り取り作業を中心に江府町の農地を守るため5年間経過しました。地域営農に対しての変化や取り組みがなされている中、平成17年をピークに受託は減少傾向にあります。

5. 江府町堆肥センターの管理運営状況について

堆肥の完熟度も改良され、利用者の評価も向上しています。更なる品質の向上と販売に努力されたい。

今後は、適正な区画面積の見直しや利用の促進に行政も出来る限りの支援を望みます。

2. 町道の維持管理状況と危険箇所について

パトロール等により維持管理がなされ、事故がないよう注意看板の設置等で危険防止に努めると共に、道路設備を検討されたい。

3. 江府町地域振興株式会社（水工場）の運営状況について

設立してからかなりの年月が経過し、工場も製造ラインも老朽化している。今日、食品等の製造

に一番求められているのは、品質管理です。お客様に安全な水の生産する様努められたい。

4. 奥大山スキー場について

奥大山スキー場の索道事業は、今シーズンから町直営として運営を行う。圧雪車の購入など費用もかさむが素晴らしいロケーションを活かし、お客様に喜んで楽しんでいただけるよう安全第一に努められたい。

5. エバーランド奥大山について

エバーランド奥大山は、1年以上かけて指定管理者を募集したが、なかなか希望者が現れない現状である。今後、どのような活用方法で再びみんなが訪れる施設にしていくなか真剣に検討されたい。

工事中の下蚊屋バイパス



水工場



現地調査

1. 市民農園カサラファームの運営状況について
今年からカサラバラ・エコファーム・Eが指定管理を行っています。2年間の閉園の影響もあつてか、農園の契約や利用者数が減り大変厳しい状況である。

2. 国道482号下蚊屋バイパスの進捗状況

当初計画から1年遅れて平成23年春の供用開始を目指して工事が進んでいるが、集落等のご理解

教育民生常任委員会

調査日 平成20年11月7日

千ロルの里 特別養護老人ホーム

特別養護老人ホームは、ベット数50床のうち約半数が江府町の入所者が利用し、認知症を対象としたグループホームは町内の方が10部屋のうち9名が利用している。現在、入所待機者が町内外あわせて86名あり、経営は順調に推移している。生活改善として他の施設に先がけ音楽療法を取入れ好評を得ているなど、入所者へのサービス充実の努力がうかがえる。今後とも関係機関と連携し利用者には喜ばれる施設となるよう要望する。町は土地の無償提供と利子補給を行なっているが収支決算書の当期利益によると13,351千円の黒字計上がなされている。町の財政が厳しいなかで今後の検討が必要である。

社会福祉協議会

昭和62年に設立された社会福祉協議会は現在ホームヘルパー5名を含め10名の職員で運営を行なっている。平成18年度より介護保険法の一部改正に伴う減収並びに町補助金の50%カットにより、財政は非常に厳しい状況下であり、経費削減はもとより人件費の削減（給与の10%カット、期末手当55%、勤勉手当・通勤手当等の全額カット）に努めているが限界にきている。町の重要な在宅介護を担う社会福祉協議会であり、ありかた委員会（仮称）設置が計画されているので、検討委員会委員構成等早急に協議検討し抜本的な方向を示す必要がある。

江尾診療所

内科、歯科口腔外科ともに診療曜日ごとに鳥取大学医学部の協力を得ており、特定健診もされており、特定健診もされており、事務長も配置され職員体制も確立している。内科10月末で診療日数153日、1日平均64・8人。歯科診療日数138日、1日平均36人。超音波診断装置も整備されたので今後とも健康管理と予防医療を進めていただきたい。

江府中学校

昭和35年に建設され、48年を経過老朽化しており、校舎の新築等検討しなければならない時期に来ております。ア、雨漏り、校舎廊下の滑りどめ等、急を要する修繕については、速やかに教育委員会と協議し、授業、学校生活に支障がないよう配慮されたい。イ、交通事故防止のため校門から北側駐車場へ向かう入り口付近の道幅



江府中学校駐車場進入路

（門扉）の拡張をされたい。ウ、図書司書の配置を検討されたい。（図書を整備、図書館教育の充実のため）エ、学力、生活環境等向上のため、今後もすべての学級の2学級制を願いたい。

教育委員会

すべての事象を的確敏速に開示願いたい。

介護老人保健施設「あやめ」

開設3年目を迎えたこの施設は武田施設長のもと「利用者第一」を基本にサービスの充実に努めている。経営的には、ほぼ計画通り順調に推移している。平成20年9月の実績では、町内の施設入所者は71名中15名の利用となつている。介護老人保健施設の特徴から、毎月入所者の約2割が入退所し不安定要素となつている。今後の課題として、安定的な経営を継続する

ため看護師等の人材確保、介護サービスの向上、職員の研究等今後も、町や日野病院等と連携し運営に当らねたい。

江尾小学校

来春小学校統合となり江府小学校となります。今後の課題として体育館の建て替え、プール、駐車場の整備、そして通学路の交通安全対策等の必要がある。また、体育館背面の傾斜地（地滑り）管理の課題があり検討願いたい。

明倫小学校、俣野小学校、米沢小学校

既に閉校になつている大河原分校、下蚊屋分校及び閉校に向けての施設管理運営について、備品の活用、保管場所、歴史的資料の集中管理、タイムカプセル等の対応を早急に検討されたい。

ひとこと



小江尾 永井 覺

環境美化に協力して 感じたこと

きれいな所にゴミは寄って来ない。きたない所にゴミが寄って来る。

まず近くの国道より清掃活動開始。バス停、待避所横の歩道、コンビニ袋に弁当がら、ペットボトル、コーヒーの空き缶等、カラス、たぬき、だるまが散らかしている。回収袋が直ぐ一杯になる。缶ビール、ワンカップの空、飲酒運

転これでは事故に。県道に入って行く。各バス停ともきれいで座布団もきちんと置いていて気持ちがいい。自治会で清掃しておられるのかな、それとも利用されている人が汚さないのだろう。トンネルの中ハザードランプを付けゴーゴーと騒音、車の合間に缶拾い。上り坂の待避所に大型トラックが止まっている。側溝には又々空き缶の山。自然豊かな緑の草原に上がって行く、気持ちがいい。しかし所々に落ちていた。こんなきれいな所をなぜ汚すのか。緑のジュータンの中で一休み。観光客が草原で楽しんでる。皆さん自分のゴミは持ち帰ってね。作業中は気持ち落ち込むがきれいに片付け終わったらすがすがしい気持ちになる。観光客より「ご苦労さんですわね」の声に気持ちがやわらぐ。駐車場で車の交通整理「ありがとう」「気をつけてね」南大山を眺めてほっとする。帰路につく途中道端にコーヒー缶あり拾い残したのかな…?

家に付いたら一服、次ぎは分別作業、水洗い、シール取り、水切り、袋詰め完了。それぞれの人々が日々明るくきれいな環境作りに努力していきたいものです。



大万 徳岡 優子

自給自足で 作品づくり

江府町に住みはじめてから「どうして山に住もうと思っただの？」とよく聞かれます。その答えは、私にとってとても単純なことです。『代々受け継いだ土地で、大事な家族と、犬と猫と、自分の食べるものを自分で作って、わずかも、自分の手で作ったものをお金にかえて、最低限必要なものだけを持ってくらすこと』それが自分にできうる最善の暮らしだと思っております。でもきつと、聞かれています。ことは、どうしてそういうふうになるのか、ということなんだらうと思えます。そして、それを伝えるのがとても難し

い。私にとってはその理由は、自分の原動力になつていて、いつもそのことばかり考えているくらいなのに。

だから、私はそれを、絵に描いています。一応それが私の仕事です。いまはまだ全然かけだしなのですが、見てくださった人が、何かを受けとってくれるということも、少しずつふえてきました。

自分が善いと思う生き方をし、くらしをつくりあげる、その中ですばらしいものをたくさん見て、感じて、知ったことを絵の中に表現したい。それが人の心に伝わるようにと願っています。

身のまわりのものは、山も、木も、川も、田んぼに生える雑草も、すべてとても美しいです。

生きることは、とてもシンプルで、でも困難で、そして楽しくてすばらしいです。そんなことを、日々学んでいます。私のしたい生活は、夢みたいな夢ですが、それを叶えようとしてもいいと思えたのは、色々な問題を乗り越えて、たくさんさんの幸運が重なったことです。そして、その夢の実現への道は、はじまったばかり。私のくらしはまだまだ発展途上、ただいま奮闘中です。

あとがき

平成20年後半からは世界経済の冷え込みで、日本経済も大きな痛手を受け、政界も総理大臣が替わり、泥沼化して出口が見えないまま新年が明けました。

江府町は財政推計が発表され、公債費比率が平成23年までは厳しいですが、その先に明るい光が指しています。

元氣が出るまちづくりに頑張ります。

本年も「議会だより」を通じて、皆さんに江府町のありのままを、お伝えしていきます。ご愛読よろしくお願ひします。

川上富夫

議会広報調査特別委員会

- 委員長 越峠恵美子
- 副委員長 川上 富夫
- 委員 上原 二郎
- 委員 日野尾 優
- 委員 池田 成弘